

## 第6節 都市基盤

### 【施策体系】

#### 分野

#### まちづくりの目標

##### 6-1 道路

住民と行政が連携して、安全な道路が確保されています。

##### 6-2 河川・治水

総合的な治水対策により、災害に強いまちになっています。

##### 6-3 公園

誰もが楽しみながら健康増進を図ることができる公園になっています。

##### 6-4 市街地形成

誰もが住みたくなる住環境になっています。

##### 6-5 上・下水道

いつも安全な水が供給されています。

快適な生活環境が整備されています。

##### 6-6 公共交通

利用しやすい公共交通機関が確保されています。

## 6-1 道路

## ■現状と課題

- 国道 21 号を中心とした幹線道路や各地域間を結ぶ補助幹線道路など、道路の機能に応じて、段階的なネットワークを形成するための道路整備が求められています。また、垂井町の南側を通る名神高速道路や東側に計画されている東海環状自動車道を活かしたまちづくりが求められています。
- 平成 17 年度の交通センサス\*によると、大垣西部における国道 21 号の平日 12 時間交通量は 19,000 台と、著しい混雑がみられ、4 車線化などの緩和策が望まれています。
- 町の顔となる駅前や中心市街地、中山道や美濃路などの歴史街道などと調和した環境整備・景観整備の推進とともに、既存住宅地の狭い道路の改良や未利用地の宅地化を図る道路の新設が必要となっています。
- 歩道の未設置区間や狭小幅員区間があるため、生活道路として安全・安心な歩行空間を確保することが求められています。

町道の整備状況

	実延長 (m)	未舗装 (タール含) (m)	舗装		橋梁	
			コンクリート (m)	アスファルト (m)	橋梁数 (箇所)	延長 (m)
平成13年	226,538	14,857	1,277	210,404	147	1,660
平成14年	227,047	7,169	1,297	218,581	147	1,660
平成15年	229,546	7,072	1,297	221,177	147	1,660
平成16年	230,296	6,807	1,297	222,192	147	1,666
平成17年	231,452	6,700	1,297	223,455	148	1,686
平成18年	231,795	6,771	1,292	223,732	148	1,686
平成19年	235,422	6,654	1,295	227,473	148	1,689

注)各年4月1日現在

(資料:建設課)

平成19年 舗装延長 228,768 m  
舗装率 97.2 %

道路の整備状況

	総数		舗装		改良	
	路線数	延長(m)	延長(m)	舗装率(%)	延長(m)	改良率(%)
国道	1	5,154	5,154	100.0		
一般県道	7	30,063	28,130	93.6		
町道	1.2級	54	45,458	99.1	40,733	89.6
	その他	743	189,964	96.7	113,412	59.7
農道	43	104,500	76,770	73.5		
林道	24	36,722	8,715	23.7		

注)国道・一般県道は平成18年4月1日、町道は平成19年4月1日現在

(資料:建設課)

農道・林道は平成18年3月現在

(資料:産業課)

都市計画道路

種別	計画	改良済		概成済	
	総延長(km)	延長(km)	改良率(%)	延長(km)	概成率(%)
幹線街路	29.64	9.32	31.4	8.95	30.2

注)平成19年4月1日現在

(資料:建設課)

\* 交通センサス：正式名称は「全国道路交通情勢調査」。道路の整備状況、旅行速度、自動車の運行目的、都市部の駐車場の状況など、道路と交通に関して多面的・継続的に実施する調査。

■目標達成に必要な施策と成果指標

こんなまちを目指します (まちづくりの目標)	住民と行政が連携して、安全な道路が確保されています。		
こんなことに取り組みます	施策		担当課
	道路交通網の整備		建設課
	国道21号4車線化の推進		建設課
	道路環境の整備		建設課
行政と住民・事業者の役割	行政の役割		住民・事業者の役割
	○目指すべき土地利用の方針に基づいて道路を整備します。 ○便利さとゆとりのある道路を整備します。		○道路事業に協力します。 ○除雪作業など生活道路の維持管理を行います。
目標達成度を測る指標	現状値 (H18)	目標値	
		H24 (5年後)	H29 (10年後)
6m以上の幅員がある町道の割合	32.9%	34%	35%
町道の歩道整備率 (5.5m以上の幅員)	36.8%	38%	40%
道路事情や道路の整備状況に満足している住民の割合	44.8%		

※6m以上の幅員がある町道の割合：6m以上の町道延長77,477.6m ÷ 全町道実延長235,422.0m

※町道の歩道整備率(5.5m以上の幅員)：歩道等設置道路延長15,867.6m ÷ 規格改良済5.5m以上町道延長43,119.0m



## 6-2 河川・治水

### ■現状と課題

- 垂井町内には一級河川の相川をはじめ多くの河川が流れており、このうち相川については計画的な改修の結果、洪水、浸水などによる被害の恐れは解消されつつあります。今後は、泥川など中小の河川を中心とした河川改修や土砂災害に対する危険箇所を整備するとともに、ハザードマップ\*の作成や避難体制の整備など、ソフト対策の推進が必要となっています。
- 治水機能の向上を主眼とした河川改修を進めてきましたが、今後は、災害時におけるオープンスペースの確保や、町民が憩うことのできる身近な親水空間づくりを目指した整備が求められています。

### ■目標達成に必要な施策と成果指標

こんなまちを目指します (まちづくりの目標)	総合的な治水対策により、災害に強いまちになっています。		
こんなことに取り組みます	施策	担当課	
	砂防や急傾斜地整備の推進	建設課 企画調整課	
行政と住民・事業者の役割	河川災害や市街地浸水の防止	建設課 企画調整課	
	行政の役割	住民・事業者の役割	
	○関係機関に働きかけながら、危険箇所を整備します。 ○地域の特性を活かした自然に優しい河川の整備を行います。	○危険箇所を把握し、災害に備えます。 ○行政と一体となって身近な水辺環境を維持管理します。	
目標達成度を測る指標	現状値 (H18)	目標値	
		H24 (5年後)	H29 (10年後)
急傾斜地崩壊危険箇所*のうち施設整備した箇所数	8箇所	9箇所	10箇所

\*ハザードマップ：自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもの。予測される災害の発生地点、被害の拡大範囲および被害程度、さらには避難経路、避難場所などの情報が既存の地図上に図示されている。

\*急傾斜地崩壊危険箇所：傾斜度30度以上、高さ5メートル以上の急傾斜地で、人家に被害を及ぼす恐れのある箇所、また、人家はないものの今後新規の住宅立地などが見込まれる箇所。

## 6-3 公園

### ■現状と課題

- 現在、垂井町には都市公園\*や児童公園など様々な公園がありますが、それらの公園の管理が統一されていないため、一元的な管理が求められています。
- 豊かな水を活かした親水公園や、美濃国府跡をはじめとする歴史資源の周辺における歴史公園、美しい緑を体験できる自然公園など、地域の特性を活かした公園の整備が求められています。
- 朝倉運動公園は、広域避難地として位置づけられており、防災ヘリコプター緊急離着陸場および一時集積配分拠点\*となっています。

### ■目標達成に必要な施策と成果指標

こんなまちを目指します (まちづくりの目標)	誰もが楽しみながら健康増進を図ることができる公園になっています。		
こんなことに取り組みます	施策	担当課	
	公園管理や運営の充実	建設課 生涯学習課 総務課	
行政と住民・事業者の役割	地域の特性を活かした公園の整備	建設課	
	行政の役割	住民・事業者の役割	
	○効率的な公園管理に取り組みます。 ○お年寄りや子どもにも利用しやすい公園を整備します。	○身近な公園の維持管理に行政と一緒に取り組めます。 ○公園を積極的に利用します。	
目標達成度を測る指標	現状値 (H18)	目標値	
		H24 (5年後)	H29 (10年後)
住民1人当たりの都市公園面積	5.56 m <sup>2</sup>	7.1 m <sup>2</sup>	8.3 m <sup>2</sup>
公園や子どもの遊び場に満足している住民の割合	42.0%		

\* 都市公園：都市計画施設である公園または緑地で、地方公共団体または国が設置するもの、および地方公共団体が都市計画区域において設置する公園または緑地。

\* 一時集積配分拠点：道路の交通混乱を避け、被災地内の避難所等へ緊急物資を配送するための中継拠点。

## 6-4 市街地形成

## ■現状と課題

- 建物の更新にあわせてオープンスペースの確保および街並みの改善が行われるよう、地区計画の策定や建築協定の指定を促進することが求められています。
- 公営住宅において、入居者の高齢化が進展しており、住宅のバリアフリー化が急務となっています。
- 垂井町内の7地域のうち、人口減少が著しい地域においては、コミュニティ崩壊を防ぐ観点からも、新たな住宅建設の促進が必要となっています。

## 【関連計画】

垂井町都市計画マスタープラン  
(平成18年度～平成32年度)

垂井町公営住宅ストック総合活用計画  
(平成14年度～平成22年度)

土地利用の指定状況

	面積 (ha)	町域面積に 占める割合 (%)
都市計画区域	3,117	54.5
市街化区域	709	12.4
用途地域	709	12.4
住宅系用途地域	471	8.2
商業系用途地域	22	0.4
工業系用途地域	216	3.8
準防火地域	18	0.3
地区計画	47	0.8
市街化調整区域	2,408	42.1

注)平成19年4月1日現在

(資料:建設課)

## ■目標達成に必要な施策と成果指標

こんなまちを目指します (まちづくりの目標)	誰もが住みたくなる住環境になっています。		
こんなことに取り組みます	施策	担当課	
	計画的な土地利用の推進	建設課	
	新規住宅建設の促進	建設課	
	公営住宅の整備	建設課	
行政と住民・事業者の役割	既存住宅の環境整備	建設課	
	行政の役割	住民・事業者の役割	
	○安心して住むことができる環境を整備します。	○まちづくりのルールを守ります。	
目標達成度を測る指標	現状値 (H18)	目標値	
		H24 (5年後)	H29 (10年後)
市街化区域内の住宅 用地の面積	2,164,900 m <sup>2</sup> (H14)	2,257,000 m <sup>2</sup>	2,304,000 m <sup>2</sup>

## 6-5 上・下水道

### ■現状と課題

- 垂井町においては、水道施設の老朽化が著しく、耐震化をはじめとする施設整備が必要となっています。
- 梅谷簡易水道、敷原飲料水供給施設、東大滝簡易水道の上水道への統合に向け、増圧ポンプ場および送配水管の改修などが今後の課題となっています。
- 下水道については、平成14年の供用開始から3年以上を経過した未接続世帯に対する普及促進が課題となっています。

**【関連計画】**  
 垂井町上水道第6次変更事業認可  
 （平成13年度～平成27年度）  
 垂井町公共下水道基本計画書  
 （平成5年度～平成35年度）

上水道の状況

		給水戸数 (戸)	年間給水量 (m <sup>3</sup> )	1日平均 給水量 (m <sup>3</sup> )	給水人口 (人)	1人1日平均 使用量 (ℓ)
上水道	平成12年度	7,766	3,528,796	9,667.9	23,732	407.4
	平成13年度	7,760	3,464,940	9,493.0	23,615	402.0
	平成14年度	7,841	3,383,739	9,270.5	23,753	390.3
	平成15年度	7,915	3,272,264	8,940.6	23,736	376.7
	平成16年度	7,972	3,244,706	8,889.6	23,734	374.6
	平成17年度	8,031	3,251,519	8,908.3	23,732	375.4
	平成18年度	8,116	3,200,328	8,768.0	23,769	368.9
簡易水道	平成12年度	1,512	485,138	1,329.1	5,539	240.0
	平成13年度	1,511	476,266	1,304.8	5,523	236.3
	平成14年度	1,511	472,989	1,295.9	5,468	237.0
	平成15年度	1,510	472,361	1,290.6	5,424	237.9
	平成16年度	1,515	474,613	1,300.3	5,407	240.5
	平成17年度	1,519	493,817	1,352.9	5,391	251.0
	平成18年度	1,528	491,684	1,347.0	5,378	250.5

※平成15年度はうるう年のため366日/年

(資料:水道課)

下水道の状況

		平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
公共下水道	処理区域面積 (ha)	155	207	243	289	347	
	処理区域内人口 (人)	4,071	6,360	7,930	8,800	9,940	
	水洗化人口 (人)	1,409	2,846	4,295	5,307	6,154	
	汚水処理量 (m <sup>3</sup> )	74,971	213,460	401,815	500,407	636,632	
農業集落排水	北部第一	処理区域内人口 (人)	493	471	458	455	447
		水洗化人口 (人)	491	467	454	451	443
		汚水処理量 (m <sup>3</sup> )	61,774	62,371	64,588	78,670	62,411
	伊吹	処理区域内人口 (人)	259	261	251	250	246
		水洗化人口 (人)	210	236	243	242	233
		汚水処理量 (m <sup>3</sup> )	19,045	21,384	22,224	22,255	21,830

(資料:下水道課)

## ■ 目標達成に必要な施策と成果指標

こんなまちを目指します (まちづくりの目標)	いつも安全な水が供給されています。		
こんなことに取り組みます	施策		担当課
	上水道の整備		水道課
行政と住民・事業者の役割	行政の役割		住民・事業者の役割
	○安全でおいしい水を供給します。		○水資源を有効に利用します。
目標達成度を測る指標	現状値 (H18)	目標値	
		H24 (5年後)	H29 (10年後)
水道施設の最大稼働率	85.5%	80%	76%

※水道施設の最大稼働率：1日最大給水量 12,316 m<sup>3</sup>/日 ÷ 施設能力 14,400 m<sup>3</sup>/日

## ■ 目標達成に必要な施策と成果指標

こんなまちを目指します (まちづくりの目標)	快適な生活環境が整備されています。		
こんなことに取り組みます	施策		担当課
	下水道事業の推進		下水道課
行政と住民・事業者の役割	行政の役割		住民・事業者の役割
	○下水道計画を見直し、早期の事業終結を図ります。		○下水道を積極的に利用します。
目標達成度を測る指標	現状値 (H18)	目標値	
		H24 (5年後)	H29 (10年後)
下水道水洗化*率	61.9%	65%	70%
下水や雨水の排水状況に満足している住民の割合	51.2%		

※下水道水洗化率：水洗化人口 6,154 人 ÷ 処理区域内人口 9,940 人

\*水洗化：くみ取り式トイレを改造するだけでなく、排水設備を設置して生活雑排水を下水道に流せるようにすること。排水設備を下水道に接続すること。

## 6-6 公共交通

### ■現状と課題

- 自家用車を利用したライフスタイルが一般的となっていますが、交通渋滞の緩和や、CO<sub>2</sub>発生抑制という観点から、今後は公共交通機関を利用する生活への転換が求められています。
- 少子高齢社会においては、自家用車を利用できない高齢者などの移動手段の確保が必要であり、公共交通機関の果たす役割が一層重要となっています。
- 巡回バスの運行経路の見直しやワンコイン\*など、多様な公共交通の導入と合わせて検討する必要があります。

鉄道の利用者数の推移

	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
垂井駅1日平均乗車人員(人)	2,889	2,784	2,715	2,704	2,710	2,677	2,800

(資料:東海旅客鉄道(株))

### ■目標達成に必要な施策と成果指標

こんなまちを目指します (まちづくりの目標)	利用しやすい公共交通機関が確保されています。		
こんなことに取り組みます	施策	担当課	
	鉄道輸送の充実	総務課 建設課	
	バス輸送の充実	企画調整課	
行政と住民・事業者の役割	行政の役割	住民・事業者の役割	
	○事業者と連携を図り、利便性の向上を図ります。	○公共交通機関を積極的に活用します。	
目標達成度を測る指標	現状値 (H18)	目標値	
		H24 (5年後)	H29 (10年後)
垂井駅の1日平均乗車人員	2,800人	2,900人	3,000人
町営駐車場の利用台数	18,165台	20,000台	22,000台
巡回バスの1日平均乗車人員	82人	140人	200人
鉄道、バスなど公共交通機関に満足している住民の割合	31.4%		

\*ワンコイン化：1乗車全線100円(ワンコイン)にて路線バスの利用ができるもの。